



配管



工場の中の装置をつなぐ配管は、製品を生み出すための血管です。さまざまな材料の配管を施工する配管工は、産業を支える重要な職業です。

配管工の仕事

「配管」というと水道管や空調の配管をイメージされる方が多いと思いますが、化学薬品やガソリンのような燃料油などを製造するプラントの場合は、さまざまな装置をつないで液体や気体などの流体を送り込む「血管」のような役割を持った配管も数多くあります。そのような配管を組み立てたり、健全な状態を維持したりするのが、プラントに関わる配管工の仕事。手際よく組み立てて設置するためには、技量はもちろん図面をきちんと読みこなす力も必要とされますが、大事な配管の設置や補修を通じて多くの産業を支える、重要でやりがいのある仕事です。

メンテナンス現場で光る配管工の活躍

配管を図面どおり組み立てて設置するのが配管工の仕事。なので図面の理解力を必要とされる場面は多いです。また配管材料にもさまざまな種類があります。これらの理解力や知識が豊富な配管工の活躍の場は、メンテナンス現場にとどまらずビル建設現場など多岐に渡ります。

国家資格の管工事施工管理技士を取得すれば、配管のスペシャリストとして大規模な工事を束ねるリーダーなど、多くの配管工や溶接工を指揮する立場になることも。優れた技量を要求される複雑な形状の工事など、困難な状況もないとは言えませんが、それを乗り越え、やり遂げたときの達成感はひとしおです。

配管



これからの配管工って、何が必要になりますか？
将来性はありますか？



重要な資格は管工事施工管理技士。これを持っていないとできない工事があるということからも、その重要性は理解していただけるでしょう。技術力を兼ね備えた配管工の場合、活躍の場が国内のみならず海外にも広がる可能性を秘めています。

日本の工場は建設されてから40年以上が経過しているものも多く、メンテナンスの必要性が日に日に高まっています。このため配管工は継続的に求められており、人数も不足している状態が続いています。みなさんも、配管工としてさまざまな現場で経験を積み、関連資格を取得して配管工事のスペシャリストを目指してみませんか？



図面を読めるようになるには
どうしたらいいですか？



配管図面を読めるようになるには、工業規格や工業材料の知識が必要になります。入社後に会社が教育しますので安心してください。



「配管工」と「溶接工」の関係は？



管どうしをつなぐのに溶接することもあります。難しい溶接は専門の溶接工が行いますが、簡単な溶接であれば配管工が行うこともあります。溶接には資格が必要ですが、それを併せ持つことで配管工としての付加価値も高くなります。なので将来的には溶接の資格も持つことをお勧めします。

免許&資格

- ・管工事施工管理技士
- ・配管技能士
- ・危険物取扱者
- ・クレーン運転士
- ・玉掛け技能講習
など